

## 日之影町の魅力ポイント

■面積 約278 km<sup>2</sup> ■人口 約3,000人 ■指定地域 振興山村 過疎地域

## ■ 渓谷 (けいこく) の町

宮崎県の最北山間部に位置し、町土の91%を山林が占める。緑に囲まれた町の真ん中には、県の5大河川のひとつ、五ヶ瀬川が流れ、北部には日之影川が流れ、深い渓谷を形成している。

## ■ まちの名前の由来

日本神話に登場する三毛入野命 (みけいりののみこと：神武天皇の兄) が鬼八退治に向かう途中大雨が降り、神に祈ると不思議なことに雨が止み、「日の影 (雲間の日射し)」が射し、『なんと有難い日の影か』と語ったという。その神話がこの町の名の由来となっている。

## ■ 特産物

栗・柚子の生産地で、その品質は市場関係者から高く評価されており、需要が高い状態が継続。

## ■ 神楽のまち

作物の実りへの感謝と五穀豊穰を祈願し、神社などで、神楽が奉納される。

深角、岩戸、四ヶ惚、岩井川の四つの流脈があり、各地区で毎年11月から2月にかけて神楽を舞う。



## 日之影町の課題

## ■ 政策分野 農業振興

- 日之影町は、栗・柚子の生産地で、その品質は市場関係者から高く評価されており、需要が高い状態であるものの、生産者の減少や高齢化による収量の低下、後継者不足、獣害被害（イノシシ、シカ）など町の基幹産業である農業において、複合的な課題に直面している。

## 応援隊の活動報告

### これまでの活動

- 1～2か月に1回程度のWEB会議を実施し、現場における課題・問題意識の把握を実施。
- 令和7年9月に現地を訪問し、町内の栗の収穫現場や加工現場の調査、農家や加工業者から現状・課題の聞き取り、町役場担当者と農業における課題についての意見交換を実施。
- (一財)日本グラウンドワーク協会が実施している、地方を応援する大学生サークルとの農村マッチング事業を紹介。他地域で行っている学生×地域の連携事例の紹介や、学生との連携に向けた予算の確保方法（第2世代交付金の活用）の紹介するなど、大学生との連携の具体化に向けた情報交換を実施。



現地視察の様子

### 今後の方針

- 来年度、地域活性化に向け、宮崎大学の学生と連携し、特産物である栗を活用したイベントの運営や広報活動等を実施予定（町予算確保済み）。学生との連携が持続的なものになるよう、日之影町と大学生がwin-winの関係となるようにサポートしていく。